

## 第 17 回 小豆島町総合教育会議

### 【日時・場所】

- 開催日時 平成 29 年 3 月 27 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分
- 開催場所 内海庁舎 2 階 研修室
- 出席者 塩田町長、後藤教育長、熊坂委員、岡田委員、黒木委員、中川委員  
森口小豆島町議会議長、大川小豆島町議会副議長、  
安井教育民生常任委員会委員長、中松教育民生常任委員会副委員長  
谷総務建設常任委員会委員長、松下総務建設常任委員会副委員長  
松本小豆島高等学校教頭、小玉小豆島中学校校長、出水池田小学校校長  
羽座星城小学校校長、石田安田小学校校長、川井苗羽小学校校長  
大岡内海保育所所長
- 同席者 【町職員】  
松本副町長、松尾副町長、坂東教育部長、空林総務部長、大江企画振興部長、  
濱田健康福祉部長、城政策統括監、松田社会教育課長、後藤子育て共育課長、  
川宿田企画財政課長補佐、高橋教育指導室長、片山教育指導室長補佐  
【教育関係者】  
川口園長(星城・安田・苗羽幼稚園)  
岡田園長(旭・福田幼稚園、内海保育所橘・福田分園)  
安藤池田幼稚園園長、増田池田保育所所長

- 傍聴者 8 名
- 事務局 4 名

### 【内 容】

#### [塩田町長]

17 回目の小豆島町総合教育会議を始める。本日は小豆島町教育大綱について取りまとめの議論をする。教育大綱案についてパブリックコメントを行い、貴重なご意見をいただいたので、はじめにこれに対する考えを事務局から説明する。

#### [坂東教育部長]

教育大綱案に対するパブリックコメントについて説明する。パブリックコメントの周知については、2 月 10 日付けで小豆島町のホームページへ掲載した。また、2 月 17 日付けで、幼・保、小、中学校の全保護者に意見募集の案内文を配布するとともに、町広報 3 月号に折り込みをした。3 月 10 日が締め切りであったが、6 名からご意見をいただいている。お手元の資料の小豆島町教育大綱(案)のパブリックコメントに対する検討結果(案)について説明するが、これについてはご意見をいただいた 6 名の方と事前に個別に面談をして

内容についての説明をしている。名前は匿名で番号を振っている。それでは、1 ページ 1 番の方の一点目は、各施設の利用拡大と活用で、小豆島勤労青少年ホームについて職員配置と施設のあり方を先に検討すべきというご意見である。検討結果は、小豆島勤労青少年ホームの現状についてはご指摘のとおりであり、常勤の職員はいないが、現状の体制で魅力ある教室・講座の開設に努めたいと考えています。施設のあり方については、施設の存続も含めて、今後の検討課題とさせていただきます。レクリエーションのエの表記については、大文字のエに修正します。ウォークのオは小文字のオで統一した表記にしています。

二点目は、スポーツ活動がしやすい環境づくりの推進で、B&G 海洋センターについて職員配置と公認指導者の活用についてのご意見である。検討結果は、B&G 海洋センターの現状はご指摘のとおりである。指導者講習は、異動により受講した職員が不在になったものであり、今後、担当職員が受講できるようにしたいと考えています。常勤指導者は、限られた職員配置の中では困難であるため、現在の体制で施設の有効利用を促進していく。

次に 2 ページ目であるが、2 番の方の一点目は、ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくりを推進、二点目の社会連帯の意識を養い、郷土を愛する心を育てるについても前に進めてもらいたいというご意見であるので省略する。次に、三点目は、内海地区認定こども園についてのご意見である。検討結果は、内海地区認定こども園については、苗羽小学校を候補地として、検討をすすめていきたいと考えている。また、今後については、各幼稚園、保育所に統合を検討する組織を設置し、ご意見を伺っていく。四点目は、内海地区の小学校の統合については絶対反対とのご意見である。検討結果は、小学校統合の方向性は、総合教育会議及び町議会で検討・協議を行った結果です。また、ご意見にあるとおり、すべての幼・保、小、中学校での説明会、公民館区ごとの町政懇談会を開催し、ご意見を伺っている。今後は、内海地区の小学校の統合について、各学校に統合対策協議会を設置し、進めていきたいと考えている。統合後の小学校においても、地域とのつながりは大切であることから、家庭・地域の教育力の向上の取組として大綱に記載している。総合的な学習の時間等を活用し、これまでどおり地域の伝統・文化、地場産業について学ぶ機会を確保する。

次に 3 ページであるが、3 番の方の一点目は、国際教育の推進についてのご意見である。検討結果は、8 ページ(4)－②－ウに、国際理解の視点に立った教育活動の推進について記載している。限られた時間数の中での取組であるため、案の表現となっているが、今後の課題にさせていただく。4 ページ、二点目であるが平井兵左衛門を学ぶ取組についてである。検討結果は、池田小学校では、これまでに総合的な学習の時間を利用して、平井兵左衛門について学ぶ機会を設けたことがありますが、時間数の関係で毎年実施できていない。今後の課題とさせていただく。三点目は、一斉読書活動の推進で、集中して読書活動する取組が必要とのご意見である。検討結果であるが、一斉読書については、池田小学校及び安田小学校は毎日実施している。星城小学校、苗羽小学校及び小豆島中学校においても朝会等以外の日も、毎日実施している。四点目は、清掃活動、あいさつ運動など日常の基本的な学校生活を重視した取組についてである。検討結果は、清掃活動、あいさつ運動については、全ての学校で実施しています。学校によっては、無言清掃や児童・生徒による自主的なあいさつ運動に取り組んでいます。なお、大綱に記載はしていませんが、各学校の指導方針には記載しています。五点目は、わが国を愛する心を育てる教育の推進についてである。検討結果は、義務教育の目標として、学校教育法第 21 条第 3 項で、わが国

と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこととなっていますので、これを尊重した教育を実践することは当然のことと思います。これを踏まえての「ふるさと教育」であり、ふるさと教育が「我が国を愛する態度を養う」ことに繋がると考えている。六点目は、小豆島町学校教育研究会の活性化についてのご意見である。検討結果は、ご指摘の研究会については、大綱(案)策定後に県教委及び土庄町と協議を行い、29年度に組織づくりを行うことで合意しています。4月以降早い段階で、新しい高校の体制の下、協議を進め、一貫教育を推進することを2ページ2(1)に追加修正する。七点目は、言葉の文化を継承する意識の醸成に関して、地名のアクセントについてのご意見である。検討結果は、ご指摘のことについては、今後の検討課題とさせていただきます。6ページ、八点目は、小豆島中学校の移転に関して、小豆島高校跡地の交渉についてのご意見である。検討結果は、小豆島高校跡地の活用については、県教委と協議している段階であるが、最終的には合意できるものと考えている。このため、小豆島中学校は、小豆島高校跡地に移転する方向で協議を行うとしている。

次に4番の方のご意見であるが、一点目は、オムツは一日でも早く外すと、乳児のときから本の読み聞かせが大切というご意見である。これについては、今後の参考とさせていただきますとしている。二点目は、障がい児が増加の一途をたどっている理由を解明し、解決することが重要だというご意見である。検討結果は障がいのある児童・生徒が増加している理由については、学校現場や保護者の理解が広がり、把握が進んだ結果という側面もあると言われているが、明確な原因は明らかになっていない状況にあると思う。大綱に記載しているが、町としては、特別支援教育の充実を図っていきたい。三点目は、児童の権利の尊重と、不登校対策についてのご意見である。検討結果は、児童の権利を尊重することは、当然のことです。不登校については、学年度によってバラツキはありますが、各学校に不登校の児童・生徒がいる。不登校の原因については、個々の案件により異なり、その原因を取り除けるよう、丁寧に対応しています。取組については、9ページ(4)ー③ーエに記載している。四点目は、紙オムツを禁止してはというご意見であります。今後の参考とさせていただきますとしている。

次に5番の方のご意見であるが、教職員の長時間労働についてのご意見である。検討結果は、教職員の長時間労働については、おおきな課題と考えています。早急な解決策はありませんが、学校統合もその一つの解決の方法であると考えている。学校規模が大きくなり、教職員の人数が増えることは校務の軽減につながる面があります。また、中学校も小豆島高校跡地に移転して、学校内で部活動が実施できるようになれば、終了時間を早くできると考えている。高齢者やPTAの活用については、有効な方法であると思うが、実際に人材を確保することはハードルが高いことから、今後の検討課題とさせていただきたい。

最後に6番の方のご意見であるが、一点目は、就学前教育の充実について、一人一人の発達に応じた働きかけと、それぞれの遊びの補償が必要とのご意見である。検討結果は、ご指摘の点につきましては、一つの考え方であり、尊重されるべきであると思います。町立の保育所・幼稚園では、それぞれの保育方針や教育方針に基づいた保育・教育を実践しているところです。二点目は、就学前教育では、自然の中でもっともっと遊ぶことを保障する事、乳幼児期に育てたいのは自己肯定感だというご意見である。検討結果は、ご指

摘の点につきましては、一つの考え方であり、尊重されるべきであると思います。就学前から勉強や習い事をしている子どもたちもいますが、それぞれの保護者の考え方であり、この考え方も尊重されるべきであると考えています。17 ページ (7) に記載しておりますが、子どもの個性を尊重した教育を推進してまいります。この検討結果(案)については、小豆島町教育大綱の策定後に小豆島町ホームページにおいて公表する予定である。以上で説明を終えるので、意見を伺いたい。

[塩田町長]

ただいま、事務局からパブリックコメントの検討結果の説明があったが、質問や意見があれば伺いたい。後程伺う時間もあるので、また意見があればお願いしたい。

では、教育大綱について修正を加えた最終案について事務局から説明する。

[坂東教育部長]

お手元の資料、小豆島町教育大綱(最終案)の説明をする。表紙には、修正の仕方載せている。目次については、本文の修正に合わせて修正しているので、説明は省略する。では、1 ページ I 大綱策定の趣旨であるが、概要版と併せて誰が策定するかを明確にするため「町長が」を挿入している。2 ページ、2(1) 幼・保、小、中、高の連携強化についてであるが、「土庄町とも連携した組織づくりについての検討を行う」を削除し、パブリックコメントの検討結果にも掲載した、「また、香川県教育委員会高校教育課及び土庄町と協議を行い、小豆島中央高校を頂点とした一貫教育について、新しい枠組みで検討し、実践することで合意を得たところである。平成 29 年 4 月以降早い段階で、新しい高校の体制の下、検討組織を立ち上げ、一貫教育を推進する。」を追加している。これについては、別紙のポンチ絵の資料で、幼・保、小、中、高の一貫教育の推進について載せている。小豆島中央高校を頂点とした一貫教育について、新しい枠組みで検討し、実践する取組についてのイメージである。中央の香川県教育委員会、小豆島町教育委員会、土庄町教育委員会、小豆島中央高校の 4 者で一貫教育の検討組織として、小豆島教育会議(仮称)を設置する。そのうえ、小豆島高校と土庄高校にあった後援会を発展的に一つにし、高校の教育全体を支える新しい組織として、小豆島中央高校教育後援会を設ける。構成メンバーとしては、これからの人選になるが会長、副会長等に理事として両町町長で構成するように考えている。平成 28 年度については、香川県教育委員会高校教育課及び両町の教育長で協議を行い、一貫教育の検討を行う体制づくりについて合意を得ている。次に平成 29 年度に小豆島教育会議(仮称)を設置しますが、構成メンバーとして両町の教育長、中央高校の校長、両町の小・中学校長の代表を考えている。また、これを実務的に支える専門部会を設置し、検討事項として 1 一貫教育の取組、2 学校教育研究会等の設置、3 交流授業の実施、4 特別支援学校高等部の検討等を掲げている。また考えられる一貫教育の実践例として、英語教育、体力・運動能力向上、コミュニケーション教育、ふるさと教育としている。資料には小豆島町の現在の取組、土庄町の取組を記載して、一番下に小豆島中央高校との今後の協議内容を記載している。今後小豆島教育会議(仮称)を中心に小豆島中央高校教育後援会と連携を図り、一貫教育についての検討協議を行い実践できるものから取り組んでいきたい。それでは、教育大綱に戻り、4 ページ②のア教職員の自主的・主体的研修活動の充実で、「年間 3 冊以上の教育図書」と表現していたが、具体的数字を「必要な」に修正している。次に 5 ページ、(2) ②文部科学省において最近は、「アクティブラーニング」を「主体的・対話的で深い学び」と表現するようになっているため、それに合わせ

て修正している。次に7ページ、(4)①ア指導計画の作成で、これは錯誤のため「道徳教育推進教員」を「道徳教育推進教師」に修正している。次に10ページ、(4)③キ不審者対策等を削除し、(5)②安全教育に移動している。次に、④イ効果を高めるための指導内容、指導方法の改善で、他の箇所と整合性をとるため、「校種間」と表現していたが、「学校間及び異校種間」に修正している。次に11ページ、⑤特別支援教育の充実、これについては特別支援教育にまとめるため削除し、(6)①に移動している。次に12ページ、(6)題名について特別支援教育の取組を明確にするため、「小豆地区特別支援学校の設置」から「特別支援教育の推進」に修正し、①特別支援教育の充実を(4)⑤から移動している。次に②、小豆地区特別支援学校の設置に向けた推進体制の構築で、他の箇所との整合性をとるため「医療と福祉の連携を図り」という言葉を挿入している。次に13ページ、(7)新たな教育への取組①②で、対象となる学校が不明確なため、「全ての小・中学校で」を挿入している。次に16ページ、(3)乳幼児一人一人に応じた教育の展開で、「指導課程」と表現していたが、内容をわかりやすくするために「指導内容や指導方法」に修正している。次に17ページ、(8)家庭で守るべきルールの作成や家庭のあり方の見直しで、「家庭」を「家族」に修正している。次に23ページ、(3)小豆地区特別支援学校の設置を推進で、ここでも「医療と福祉の連携を図り」という言葉を挿入している。次に概要版で、これについても本編との整合性のため、同じように修正について記載している。

[塩田町長]

教育大綱(最終案)についての説明があったが、何かご意見やご質問があればお願いしたい。

[後藤教育長]

大きく変更したところはない。特に、一貫教育などについてご意見があれば伺いたい。

[小玉小豆島中学校校長]

英語教育について、小学校等英語教育が充実してくるということで、中学校としても小学校の英語の学習を踏まえて、中学校でも充実させていきやがて高校へも繋げていく。小学校とも高校とも連携していく必要がある。町・郡の校長会においてもそのあたりを十分に協議しながら進めていきたい。また、高校もひとつになったので、土庄中学校と小豆島中学校の生徒が一緒になるため、両中学校においても連携を深めていき、切磋琢磨できるように中学校では取り組んでいきたい。また、資料中の小豆島中央高校教育後援会とあるが、この会長・副会長はどのような方を考えているのか。

[松本小豆島高校教頭]

新高校が立ち上がったからの検討事項になると思う。

[塩田町長]

土庄高校と小豆島高校どちらにも後援会があるが、現在の会長が新しい高校の後援会をどうするか協議を進めている。その動きを基本にして小豆島の経済界、産業界、いろんな関係者が一番集まるであろう、小豆島総合開発会議でも協議をしている。その中で、小豆島全体で教育を支える後援会を作ろうという動きになっている。会長、副会長等、主要メンバーをどのような方を、どのような手続きで行うか最終結論は出ていないが、4月6日始業式、県教委の正式な開校式は6月でスタートしてから、どのような形、メンバーで作るか決めていく。県立であるので、今までは行政から少し距離を置いていたが、新しくひとつになった高校は両町のサポートなしでは目指していくものが達成できないので、行政

が関わった方がいいのではないか。

例えば、一貫教育で英語教育やコミュニケーション教育をやろうとしたとき、一定レベルまでは県の予算で確保されると思いますが、それをさらに小豆島中央高校でレベルアップしようと思えば、その財源は寄付や両町の負担金や補助金になると思う。小豆島の子どもたちにとって、レベルアップするためには行政の関与が不可欠であり、両町行政が積極的に関わる形の後援会が望ましいのではないかというような議論が今なされている。

いずれにしても、正式に土庄高校の泉谷教頭が新しい高校の新校長になることになった。泉谷さんは、小豆島高校でも何年間も教頭をされ、土庄高校でも教頭をされていたので両校の特徴や課題をご存知であり、高校が正式にスタートして以降、最終的な結論を求めて教育後援会をスタートするといことになるのではないか。

[後藤教育長]

今からということで、教育の内容を決めるのが小豆島教育会、そして、行政のバックアップをするのが小豆島中央高校教育後援会の部会、この2つがあって、新しい中央高校をバックアップしていくと、それと併せて、幼・小・中・高の一貫教育を進めていくという考え方である。

小学校の方からのご意見をお聞きしたい。川井校長先生何かご意見があれば。

[苗羽小学校川井校長]

一貫教育の実践の中の英語教育について少しお話したい。本校でもALTのエマ先生や支援員の吉田さんが来てくださっている。その方から、今の本校の英語教育のあり方について3月にご意見があり、実際に指導に入ってみて、もっと外国人とコミュニケーションを取るためには実践的な英語に変えたほうがいいのではないかというようなご意見で、具体的なカリキュラムの見直しの提案もあった。そのようなことを踏まえて、今羽座校長先生が学力推進委員会の英語担当であり、その話をお話した上で来年度は本校のカリキュラムを吉田先生とエマ先生に練っていただいている段階である。このような流れやいろいろな資料が出ており、それもお渡して2人が考えて下さる案を待っているところである。それで、本校の来年度の三年生以上の英語教育を行うものを実際に行っていく中で、小豆島町で取り入れていただくものを考えていただくという流れになっている。

今そのような流れがあるので、今後部会においても英語教育を考えた場合に各学校のカリキュラムを持ち寄るであるとか、いろいろな講師先生方に小学校のカリキュラムを再度見直し、幼稚園でもALTが入っておりますのでそのカリキュラムを掌握していただいて、ある程度どこの学校でも質を確保するということと、同じような内容であって、統合した時も高校に行ったときも同じになるということを目指していった方がいいのではないかと今考えている。

[後藤教育長]

今苗羽小学校で英語教育の見直しをやっている。この取り組みは苗羽小学校から波及して町内の小学校の方に同一になると思う。それを元にして中学校、そして高校と続いていく。逆の考え方もある。高校から中学校、小学校、そして幼稚園・保育所という取り組み方もあると思う。このあたりをうまく専門部会も統一していく必要がこれから出てくることになると思う。

[後藤教育長]

その他に、議員さんの方からもご意見あるとありがたい。谷議員何かご意見はないだろ

うか。

[谷議員]

大綱をよくここまで仕上げていただいたと思う。要は高校が一つになったことで、一貫教育が現実味を帯びてきたと。どうしても小学校の統合やいろいろなご意見があるとは思いますが、一番大きな所は小豆島中央高校を頂点とした小豆島全体の総合教育を作ることだと思う。この大綱及び後援会なり教育会議をいかに一般の皆さんのPTAや親御さんや地域の皆さんに理解をしていただくかが、今後我々の仕事だと思う。是非ともここで各校長先生方もこの中で頑張ろうということなので、いかに住民の皆さんにご理解頂いて協力していただくかということが今後の課題かと思う。ものすごく期待と申し上げますか、大きな改革の案が出来たので、これをいかに実践していくところが今後の課題かと思う。ありがとうございました。

[後藤教育長]

ありがとうございました。

あと教育民生の安井委員長さん何かご意見あればお聞きしたい。

[安井議員]

少し疑問がある。小豆島中央高校教育後援会理事に両町の町長という形になっていますが、今までそれぞれの高校にあった後援会には相談役的な部分で行政が関わっていたと思うが、実質的な運営の中でバックアップするところをお願いするという形で理事というのは少しどうかなと思うが。

[塩田町長]

先程説明したとおり、こういう案で後援会組織を考える人たちの意見がまとまりつつあるということなので、もしそういう協議があれば、正式に後援会の議論は学校が主体的にと住民の皆さんが主体的に作るものだと思うので、その場で議論していただければと思います。私たち町長は絶対的に協力して応援する立場に変わりはありませんので一番いい形が、安井委員長が言ったように少し距離感を置いたほうがいいのであれば、それもそのとおりだと思う。私に決定権はない。一般に学校の後援会は誰が作るのか。行政がすることはありえない。私に積極的な権限は何もない。小豆島の未来が掛かっている。土庄町長も同じである。

[熊坂委員]

今まであった両高校の後援会というのは、スタートが部活動の後援会であり、教育面に踏み込んだ後援会ではなかったと思う。ただ、土庄町には部活動の後援会と教育面での後援会と組織が分かれていた。教育面の後援会は、教育内容に関わる援助的な組織としてあった。今後統一したひとつの高校になったので、後援会のあり方も新しいスタイルで進められていけばいいのではないか。

[塩田町長]

いずれにしても、泉谷校長先生になるので今日のこういった意見も伝え、新しい高校で一番良い体制で作っていただければいいと思っている。

[後藤教育長]

幼保代表で、大岡所長意見はないか。

[大岡所長]

就学前教育を大綱の中でしっかりと伝えていただいていることがありがたい。また、以

前から比べて幼保の交流と幼稚園、保育所と分け隔てなく就学前教育に力を入れていくことも伝わっておりありがたいと思っている。それに加え、小学校との交流も行事に参加したりと、前向きに進んでいることもありがたく思っている。それをまた一歩進めて、中学校とも何か交流できればと、課題として思っている。ALTの先生と内海保育所は交流がないので、交流できるようにお願いをしたい。

[後藤教育長]

ALTについては検討させていただく。他に意見があればお願いしたい。また何かあれば、事務局までお願いしたい。この教育大綱は5年間を目安にしているが、何かあれば見直しする。教育する立場からこの大綱がバイブルとなるので、これからの教育活動等に取り組んでいきたい。

[塩田町長]

それでは、法律制度上、教育大綱については町長が定めることになっているので、承認頂けるのであれば、この教育大綱案で正式に策定したいと思う。総合教育会議は新年度以降も引き続き定期開催することになっているが、今日の教育会議で小豆島高校と教育委員の方が最後になるので一言いただければ。

[松本小豆島高校教頭]

先程、川井校長が言っていた実践的な英語力であるが、それはいろいろな捉え方がある。例えば英会話は実践的と考えられるが、生徒たちが将来外国人と会話する機会がどれくらいあるかと考えると、実はほとんどない。それよりも、このご時世であればネットで繋がっているのに、会話ではなく文章力が非常に大事になってくるので、これも実践的な英語力と言える。高校の先には大学があったり、専門学校があったりするが、そうすると大学入試の実践的な英語力という、リスニング等あるが、いかに文法力、単語力等がなければ大学入試に対応できない。こういった情報を高校から発信し、中学校はどのように対策すればよいか、さらに小学校等へと連携できればと思う。新しい高校は、両高校と新しく入ってくる中学生とがうまく融合して行ってほしいと思っている。ただ、いくつかの文化が統合するときには大きな変化があるはずであるので、是非皆さんに支援していただきたい。話は変わるが、先日の大相撲琴勇輝は残念だったが、稀勢の里が優勝し、何年か前の貴乃花を思い出した。小泉元首相が「痛みに耐えて頑張った。感動した。」と内閣総理大臣賞を受賞したことを思い出した。その後、貴乃花はケガのために成績を上げられず、ケガによって引退することになった。私が言いたいのは、その相撲ではなく、小泉元首相は、所信表明で米100票の教を語っていた。未来を考えると、今お米を我慢して子どもたちに託すということで、良い学校を作って子どもたちを教育し未来を切り開こうという話ではなかったのかと思っている。子どもたちのために何ができるのか考えて今後も関わっていきたい。どうぞ、小豆島中央高校をよろしくお願いしたい。

[熊坂委員]

かなり期間をかけて作ってきた大綱であるが、非常に中身が豊富な大綱になったと思う。これを実際に現場で実践していくには大変な苦労があると思う。ただ、この対抗が町の教育の憲法のような存在になると思うので、それぞれ現場でこれに対してどういうふうに対応していくか十分検討してもらいたい。全部網羅することは非常に大変であるので、町からの支援が大切である。ただの飾り物ではなく、活かせるように今後の努力をお願いしたい。



[岡田委員]

この4月で、約10年務めた委員3名が退職する。自分たちが教育現場にいた時とは状況が変わっていると感じた。松本教頭が言っていたように、子どもたちが未来へ向かって行けるようにと思う。英語力についても、ALTの先生等非常に連携が取れていると感じている。幼稚園に行っても英語で挨拶している。中学生においても、瀬戸芸では、英語で案内するなど、活躍していることを聞いている。また、そういった学習が増える中で、ふるさと学習が減ってきていることが少し寂しく感じる。平井兵左衛門や壺井栄についても薄れていき同じように寂しく感じることもある。こういったものを残していったほしい。

[黒木委員]

この度の教育大綱であるが、大変細部にわたり記載をされている。点数で言うとはほぼ100点ではないかというくらい、完璧に網羅されていると思う。メインは高校までの一貫教育であるが、その中で英語教育が上がっていましたが、実際に小学校で導入されるということで現場の先生方は不安であろうかと思う。それを町が懸命的に支援の体制づくりが非常に重要であり、それによって現場の先生方の不安を解消し、ゆとりを持って子どもの教育ができるだろう。

[後藤教育長]

松本教頭先生、3名の委員の皆様今までありがとうございました。今後も皆さんのご意見を胸に留めて進めていきたいと思っている。

[塩田町長]

他に意見がなければ、以上をもって本年度の総合教育会議を終わらせていただく。本当に長い間ありがとうございました。